

## 授業科目

## 内部障害理学療法学

担当教員名 椿 淳裕、松本 香好美、森下 慎一郎、山内 一	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	3	時間数	90

## ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎	◎	◎

## 授業の概要

内部障害の生理的变化と障害による病態変化について整理し、内部障害における理学療法の位置付けや役割について理解する。また、内部障害をもつ患者に対する評価、治療方法および治療効果についての理論的考察を行う。

## 授業の目的

内部障害によってもたらされる機能障害や運動制限の成因・病態・回復過程・予後について学習する。また、理学療法におけるリスク管理、評価、運動療法、物理療法、日常生活指導、生活環境支援の理論と技術を系統的に習得する。

## 学習目標

1. 呼吸器系の解剖・運動・生理学的な知識を習得し、呼吸器疾患の生理的变化と病態について説明できる。
2. 呼吸リハビリテーションにおける情報収集の内容と評価項目を列挙し、疾患別に必要な情報収集と評価項目を選択できる。
3. 疾患別の呼吸理学療法を計画し、目的から治療効果についてまで述べる事ができる。
4. 呼吸理学療法に必要な評価、治療技術を習得し、実施できる。
5. 運動負荷試験について説明することができ、それに基づく運動処方ができる。
6. 心電図の基礎波形について説明でき、不整脈と運動について説明できる。
7. 心臓機能の障害とそれによってもたらされる運動制限について、説明できる。
8. 循環器疾患の理学療法の効果とその機序について、論理的に説明できる。
9. 循環器疾患のリスク管理について習得し、実施できる。
10. 代謝疾患の理学療法の効果とその機序について、論理的に説明できる。
11. がんのリハビリテーションにおける理学療法の役割について説明できる。
12. がんの理学療法の対象疾患について説明できる。
13. がんの理学療法をする際のリスク管理について説明できる。
14. がん疾患の理学療法の効果とその機序について、論理的に説明できる。
15. 代表的な疾患をもとに、根拠に基づいた理学療法を実施できる。

## 授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	内部障害理学療法学総論	演習	松本 香好美
2	呼吸リハビリテーション総論	演習	松本 香好美
3	呼吸器系の解剖学、運動学、生理学	演習	松本 香好美
4	呼吸器疾患の生理的变化と病態	演習	松本 香好美
5-6	呼吸リハビリテーションにおける情報収集と評価1	演習	松本 香好美
7-8	呼吸リハビリテーションにおける情報収集と評価2	演習	松本 香好美
9	呼吸理学療法の治療技術	演習	松本 香好美
10-11	疾患別呼吸理学療法1	演習	松本 香好美
12-13	疾患別呼吸理学療法2	演習	松本 香好美
14-15	吸引	演習	松本 香好美
16-17	関連臓器の生理的变化と病態、活動の制限	演習	椿 淳裕

18-19	循環器疾患・代謝疾患における情報収集と評価	演習	椿 淳裕
20-21	運動負荷テストとそれに基づく運動処方	演習	椿 淳裕
22	心電図の基礎波形, 不整脈と運動	演習	椿 淳裕
23-25	循環器疾患・代謝疾患の理学療法とその効果および機序	演習	椿 淳裕
26-28	循環器疾患・代謝疾患のリスク管理, 代表的な疾患の理学療法	演習	椿 淳裕
29-30	一次救命処置	演習	山内 一
31	がんリハビリテーション総論	演習	森下 慎一郎
32	がんのリハビリテーションにおける各専門職種役割とチームアプローチ	演習	森下 慎一郎
33	化学療法・放射線療法の合併症とリスク管理	演習	森下 慎一郎
34	悪液質とサルコペニア リハビリテーション栄養アプローチ	演習	森下 慎一郎
35-36	各種がん疾患の理学療法評価	演習	森下 慎一郎
37-39	疾患別がん理学療法1 (脳腫瘍、頭頸部がん、乳がん、婦人科がん、肺がん・消化器系がん)	演習	森下 慎一郎
40-42	疾患別がん理学療法2 (骨軟部腫瘍、骨転移、造血器腫瘍、小児がん)	演習	森下 慎一郎
43	緩和ケアの理学療法	演習	森下 慎一郎
44	リンパ浮腫に対する理学療法	演習	森下 慎一郎
45	がんの理学療法の問題点とその解決 (グループワーク)	演習	森下 慎一郎

## 使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	内部障害理学療法学テキスト	細田多穂 (監修) 他	南光堂	2011年	4,800円 + 税	
参考書	呼吸理学療法標準手技	千住秀明 (監修) 他	医学書院	2008年	3,200円 + 税	
	循環器理学療法の理論と技術	増田卓 (編集)、松永篤彦 (編集)	メジカルビュー社	2009年	5,700円 + 税	
	がんのリハビリテーションマニュアル: 術期から緩和ケアまで	辻哲也 (編集)	医学書院	2011年	4,600円 + 税	
その他の資料	授業資料を配付					

## 評価方法

知識理解・技能の確認として小テストまたは課題提示を行う。

実技試験 (口頭試問を含む) および定期試験で60点以上であることが単位取得において必須である。その点数に小テストまたは課題、意欲的に取り組む授業態度等を加味する。

評価の割合は、実技試験 (口頭試問を含む) および定期試験90%程度、その他10%程度とする。

## 履修上の留意点

解剖学、生理学、運動学、内科学などの関連する科目を復習した上で、授業に臨むこと。

演習はTシャツ・短パンの上に医務衣を着用して授業に参加すること。

聴診器は購入した自分の聴診器を持参し使用すること。

出席が規定の回数に満たない場合、定期試験を受験することができません。

## オフィスアワー・連絡先

椿: オフィスアワー 12:00~13:30 (月曜日, 火曜日, 木曜日), 連絡先 tsubaki@nuhw.ac.jp

森下: オフィスアワー, 連絡先とともに初回の授業で連絡

松本: オフィスアワー 初回の授業で連絡, 連絡先 kayomi-matsumoto@nuhw.ac.jp

山内: オフィスアワー, 連絡先とともに初回の授業で連絡